

令和 6 年 度

軽米町教育委員会の事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書

令和 7 年 8 月

軽米町教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが規定されました。

軽米町教育委員会は、平成 21 年 2 月 23 日に「軽米町教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施要領」を施行し、点検及び評価を実施して参りました。

報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、令和 6 年度に執行した事業について、教育委員会で点検・評価を行い、客観性を確保するために、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

《参考》

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和 6 年度在籍の軽米町教育委員名簿

教 育 長	小 林 昌 治	(R 4 . 9 . 1 ~)
教育長職務代理者	工 藤 健 三	(R 2 . 10 . 1 ~) 教育委員 (R 4 . 10 . 1 ~) 職務代理者
委 員	紫 葉 守	(R 5 . 10 . 1 ~)
委 員	玉 舘 誠	(R 4 . 9 . 15 ~)
委 員	佐々木 敦 美	(R 4 . 10 . 1 ~)

2 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、毎月「教育委員会定例会」を 12 回、「教育委員会臨時会」を 2 回開催しました。

3 教育委員会議の審議状況

令和6年度は、合計で15件の議案について審議しました。

- (1) 教職員及び事務局職員の人事に関する事 . . . 3件
- (2) 附属機関の委員の委嘱 7件
- (3) 教科書の採択に関する事 0件
- (4) 教育委員会に関する規則等改正に関する事 . 2件
- (5) その他教育行政に関する事 2件
- (6) 教育長、教育委員の辞職、職務代理選任 . . . 1件

また、毎月の定例会議において、当月の事務事業の報告も行っています。

4 教育委員会議以外の活動状況

- (1) 総合教育会議（町長、教育長、教育委員会）

第1回 6月19日（水）

- (2) 町議会関係 4回（定例会4回）

本会議及び特別委員会等への出席

- (3) 主な会議、研修会等への出席

ア 教育長会議等への出席 36件

- (4) 学校訪問の実施

ア 町内小中学校への訪問 27回

5 令和6年度事業の点検・評価

（別紙 様式1「主要事業の概要」のとおり）

6 教育に関する有識者の意見

(1) 教育委員会事務の点検及び評価の概要

令和6年度の軽米町教育委員会の事務事業は、令和5年3月に策定された「軽米町教育振興基本計画（令和5年度～9年度、5ヶ年計画）」に基づき、実施されている。

その多方面にわたる教育関係施策、事業を大きく4つに分類された事業の概要について説明を受け、それらを点検・評価した。

(2) 主要事業に対する意見

はじめに

令和5年12月、住民待望のかるまい文化交流センター「宇漢米館」が開館し、施設の利用が図られている。開館以来各種活動の拠点として利用されており、学びの場及び交流の場としてさらなる利活用が期待されるものである。

令和6年度における軽米町教育委員会の事務事業においては、宇漢米館のオープニングイヤーとして例年より多くの事業が展開された。

一方、職員の減員等により事務執行体制が整わない中での事業推進を考慮に入れ評価を行った。

①生涯学習の推進について

住民が生涯にわたり学び続けるための生涯学習推進事業については、各種教養・文化講座の開催、児童・生徒の成長時期に応じた体験活動、地域づくりのリーダー育成事業などが展開されている。

文化・芸術振興では軽米町文化協会設立70周年記念事業として町民劇「1月のほたる」が上演された。

一方、推進体制の充実では予定されていた会議が開催できなかったことは反省願いたい。また、活動の紹介や発表の場の周知方法の検討が必要と考えられる。

社会教育環境の整備・充実に関しては、かるまい文化交流センター内に整備された図書館の機能や蔵書等の充実が図られている。

総各種研修等に委員、職員、関係者が参加しているが、その研修内容の共有をはかる伝達講習などの方策を講ずる必要がある。

②学校教育の充実について

学力向上対策として、各種学力調査の結果の分析を行い、課題を把握するとともに改善に向けての対策を講じている。また、学力向上支援員、特別支援教育支援員を町内各校へ配置するなど、児童生徒に寄り添った対策が取られている。

情報化教育では、一人に1台の端末を活用した学習が推進されている。また、指導者に機器の活用に関する講習を行い、指導力の向上が図られ

ている。

全国的に増加傾向にある不登校児童生徒の対策として、教育支援センターを新たに開設し、対策を前進させたことは評価に値する。

また児童・生徒の健全な成長のため、学校給食が大きな役割を果たしており、軽米町立学校給食共同調理場の役割は大きいことから、施設の維持管理に万全を期す必要がある。

③生涯スポーツの振興について

出生数、児童生徒数の減少や人口減少。また、生活様式や価値観の多様化によりスポーツを取り巻く環境は大きく変化してきている。

かるまい文化交流センター内に整備されたトレーニングルームは一定数の利用者がおり、今後もニーズに沿った運用を図る必要がある。

芝桜スポーツスポーツフェスティバルは多くの団体で各種大会を開催し、かるまい・スポーツフェスティバルとして新たにスポーツに触れ合う機会を創出する動きが出てきたことは良い傾向であり、支援と協力を進めるべきと考えられる。

なお、競技者の底辺拡大に大きく寄与している中学校部活動の地域移行については、国の方針を受け軽米町の事情を踏まえるとともに、中体連や県及び管内市町村の情報を収集し、方向性の検討を進める必要がある。

④多様で個性ある文化の創造について

芸術文化活動に関しては、かるまい文化交流センターの開館によるオープニングイヤー記念事業が数多く開催され、活発な活動が展開された1年であった。1年限りの成果とせず、継続性と発展性を持たせた事業の展開が望まれる。

少子化、高齢化に伴う郷土芸能団体の活動休止が顕著となっており、優れた郷土芸能を絶やさないための新たな事業展開の検討が必要である。また、軽米町歴史民俗資料館の来館者を増やす施策の展開が望まれる。

7 特記事項

不登校児童・生徒への対策として、校外型教育支援センターを開設し対応を進めたことは大いに評価できるものである。

また、岩手県立高等学校の再編計画（案）が示された中で、軽米高等学校の学級減が示されている。軽米中学校の在校生の進路等に大きな影響を及ぼすことから、その動向を注視していかなければならない。

以上のとおり、点検し、評価しました。

令和7年8月21日

有識者 山 舘 松五郎

有識者 圃 田 清 和

有識者 日 山 美津代

主 要 事 業 の 概 要

評価 A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

第 1 章 生涯学習の推進

第 1 生涯学習推進体制の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 生涯学習 推進体制 の充実	① 生涯学習組織体制の整備 ・生涯学習推進担当員（町職員）の設置 ・生涯学習推進員（行政区推薦）の設置 社会教育委員会議の開催 「社会教育の方針と計画」の作成 ② 図書館協議会の開催 7月17日	B	・生涯学習に関する施策と推進体制を整備した。 ・生涯学習推進員と担当員を配置し、地域での生涯学習推進体制を整備した。 ・生涯学習活動を推進するため、社会教育・生涯スポーツの方針と年間事業を決定し、計画的な事業推進を図った。 ・生涯学習推進員と担当員の活動機会の拡充を図るため、具体的な事例に学ぶ研修等が必要である。 ・生涯学習推進本部会議を開催できなかった。
(2) 学習情報の 提供	① 生涯学習カレンダーの発行 ② 多様なメディアを活用した生涯学習情報提供 ③ 町民の主体的な学習活動の奨励・援助	A	・各関係機関と連携・調整を図り、生涯学習カレンダーを発行した。 ・広報おしらせ版、かるまいテレビ、町HPを活用し、町民に必要な学習情報の提供に努めた。 ・宇漢米館内に情報発信コーナーが必要である。
(3) 協働・参 画のまち づくり	① 自治公民館長等リーダー研修会、生涯学習推進員研修会合同開催 7月24日(水) 参加者67人 講師 NPO法人スポーツウエルネス ② 軽米町民生涯学習フェスティバル 令和7年2月2日(日) ・18の個人・団体が出演、新春書初め作品（絵画・絵手紙・写真・町民劇写真展等の展示） ・出演者、スタッフ等計450人	A	・コロナ禍の影響や核家族化、生活の多様化などの進展により、地域活動が停滞してきている。このことから自治公民館を核とした活性化の取り組みを推進する必要がある。 ・かるまい文化交流センターでの2回目の開催となり、来館者も多く生涯学習の発表の場を提供することが出来ている。

第2 家庭と地域の教育力向上の推進

1 健やかな成長を育む家庭教育の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 発達段階 に応じた 学習機会 の提供	① 家庭教育学級の開催 ・ 少年期の発達課題に応じた講座開設 ・ 各小中学校での自主的な講座開設 ・ 幼児期子育て講座 12講座、延べ180組 ・ 学童期講座 1 講座、延べ34人 ・ 思春期講座 3 講座、延べ206人 ・ その他の家庭教育学級 2 講座、延べ241人 ② 家庭教育に関する啓発資料や学習情報の提供	A	・ 各小中学校で希望する分野に沿い講師を派遣して家庭教育学級が開設され、児童・生徒を持つ保護者を対象に、家庭教育の場が設けられた。 ・ 乳幼児健診の機会を活用し、読み聞かせや子育て相談など、健康ふれあいセンターと連携した講座開設に取り組んだ。
(2) 相談体制 の整備と 交流の場 の提供	① 相談窓口開設と子育てをする親の交流促進	A	・ 保健・医療・福祉等、関係機関との連携協力により、保護者同士の交流の場を設け、子育てをする仲間づくりの交流推進を図ることが出来た。

2 青少年の心を育む学習活動の支援

(1) 地域ぐる みの活動 の推進	① 郷土芸能伝承活動 ② スクールガードの配置による見守り活動 全小中学校に配置 20人 ③ 子ども会世話人研修会は、教育振興運動集約集会と合同開催とした。	A	・ 学社融合事業の活用により、地域住民の協力を得た伝承活動が各学校で行われている。 ・ スクールガードの募集に努めるとともにボランティアの人材発掘が必要である。 ・ 令和6年度から子ども会の育成者対象の講演会等の開催は、教育振興運動集約集会と合同開催とした。
(2) 体験的な 活動機会 の充実	① 子ども会リーダー研修会 (県北青少年の家) 仲間づくり、キャップ ハンディ体験 10人 ② 軽米町子ども会リーダー音更町視察研修(訪問7/29~8/1、 受入8/6~8) 音更町15名、軽米町13名の児童が参加	A	・ 仲間づくり活動などで協調性を養い、子ども会リーダーの育成が図られた。また、キャップハンディ体験を通じ、障がい者への理解を深めることができた。 ・ 姉妹町の音更町との相互訪問交流を令和5年度から再開し、民泊を含めた相互訪問を実施することで、児童の体験的な活動機会の再興が図られた。

(3) 青少年団体活動の支援	① 町子ども会育成会連絡協議会活動支援 ・ 工作教室 8月10日(土) 9子ども会 35人 ・ プログラミング教室 8子ども会17人 ・ 映画上映会 第1回 10子ども会 50人(保護者等含む) 第2回 11子ども会 64人(保護者等含む) ② 青少年健全育成町民会議支援 ・ キャップハンディ体験(子ども会リーダー研修会と合同開催) 11月16・17日、10人	A ・ 町内子ども会相互の親睦と交流を通して、ふれあいを深め青少年の健全な育成が図られた。また、各事業の運営は多くの育成会員の協力のもとに進められた。 ・ 少人数化が進み、単位子ども会での活動が困難となってきており、学区内での連携強化や組織の見直しが必要と思われる。 ・ 更なる体験プログラムの充実が必要である。 ・ 青少年健全育成町民会議の活動の支援に努めた。
-------------------	--	---

3 地域と学校の連携・協働の推進

(1) 地域学校協働活動の実施	学校・家庭・地域の連携協力推進事業(国庫補助) ① 学校支援地域本部事業 町内小中高で実施 ・ 学校巡回による図書室整備、活動支援 60回 ・ 小学校登下校時スクールガード「見守り隊」20人 ② 放課後子ども教室推進事業 町内全小学校で開設 延べ446日、7,379人参加 ③ 家庭教育支援事業(再掲) ・ 幼児期子育て講座 12講座、延べ180組 ・ 学童期講座 1講座、延べ34人 ・ 思春期講座 3講座、延べ206人 ・ その他の家庭教育学級 2講座、延べ241人	A ・ 学校等への定期的な巡回により、学校図書館の整備や読書活動機会の充実を図った。 ・ ボランティアの固定化と高齢化に対応するため、人材の発掘を定期的に行っていく。 ・ 地域住民の協力を得ながら、町内全小学校で、放課後における安全な居場所を提供した。 ・ 年間を通して放課後子ども教室の運営に必要な人数の安全管理員の確保に努める。 ・ 中学生と保護者を対象にした3回の思春期講座では、命を大切にすることや自分自身を大切にすること、そのためにはどのように考え、行動していけばよいのかを考える機会となった。
(2) 教育振興運動の推進	① 教育振興運動推進委員会 ・ 常任委員会の開催 2回 ・ 総会の開催 1回 ・ 研修会の開催 1回 ② インターネット利用実態調査の実施 ③ 教育振興運動集約集会・講演会 120人参加 ④ 「実践のあゆみ」発刊	A ・ 小・中・高生インターネット利用状況の継続した調査により利用実態の評価分析ができた。 ・ 集約集会では、実践発表や情報提供を通じて、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の効果的な取組方策について理解を深めることができた。 ・ 各実践区の教育振興運動の実績を集約することで、運動の意義と実践意欲を高めることができた。

第3 生涯にわたる学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 多様な学習活動の支援	① 生涯学習講演会 7月24日 テーマ「これからを元気に過ごすための運動」 参加者 67人 ② 町民講座の開設（町民講師の活用） ・菊植え、俳句、絵画、大正琴、書道、絵手紙、相撲甚句、盆栽、書初め、演劇教室など 15教室を開催 延べ601人 ③ 地区学習会講師派遣事業【実施なし】 ④ 共食事業の支援 3回 ⑤ 地区学習会【実施なし】	A	・学習により習得した知識・技能や経験を発揮できる機会の拡充に努めた。 ・各種の町民講座を開催し、学習機会の提供に努めた。令和6年度は新たに2つの講座が増え、芸術文化の振興に寄与できた。 ・多様な学習ニーズに応えるため、関係機関・団体と連携し、多くの学習機会の提供を推進する。
(2) 高齢者の学習活動の支援	① 高齢者教室 「第52期寿大学」 ・運営委員会（10人）1回 ・講座開設10回（講話、健康講座、作品作り等） 延べ409人参加	A	・高齢者が生きがいを感じ、豊かな生活を送るための学習機会を提供できた。 ・運営委員の意見や要望を講座に反映できた。 ・対象年齢の検討が必要と考えられる。
(3) 社会参加活動の促進	① 社会教育事業へのボランティア活動促進 ・自治公民館連絡協議会活動の支援 ・生涯学習フェスティバル実行委員会の活動支援（生涯学習フェスティバルの開催） 令和7年2月2日（日） ・18の個人・団体が出演、新春書初め作品（絵画・絵手紙・写真・町民劇写真展等の展示） ・出演者、スタッフ等計450人 ② 公民館サークルの活動支援（町民講座、芸術文化講座の自主開設支援） ③ 二十歳のつどい ・8月15日 出席者 48人 ④ 学社融合・社会人講師派遣事業 16件延べ23人派遣	A	・地域の実情に即した公民館活動について相談支援に努めた。 ・かるまい文化交流センターを会場として2回目の開催となり、来場者も多く生涯学習の発表の場を創出することが出来た。 ・若い世代の参加者、来場者を増やす取り組みが必要である。 ・かるまい文化交流センターを会場に芸術文化講座が行われている。 ・二十歳のつどいは8月15日に実施した。 ・学社融合・社会人派遣事業は家庭教育事業としても実施され、各学校で定着している。

第4 社会教育環境の整備・充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 社会教育 の専門職 員の養成 と配置	① 社会教育主事資格取得の奨励 ② 専門職員（図書館司書・学芸員等）の資格取得の奨励	B	・社会教育主事の継続的な配置が必要であるため、計画的な育成に努めたい。
(2) 社会教育 関係職員 研修の充 実	① 各種研修機会への積極的な派遣	A	・職員、委員等の資質向上に努めた。
(3) 社会教育 関連施設 の整備充 実	① 社会教育施設の整備事業（中央公民館、町立図書館等） ② 青少年ホームの解体 ③ 自治公民館整備補助金事業【活用実績なし】	A	・かるまい文化交流センターが開館し、公民館機能も兼ね備えた複合施設となっている。併設された町立図書館も機能拡充が図られている。 ・図書館の運営を業務委託し、図書館利用者のサービス向上を図った。 ・用途廃止した青少年ホームについて、荒廃による周辺への影響や今後の土地利活用のため解体した。
(4) 図書館運 営の充実	① 図書資料の整備 ・購入等による年間受入冊数1,613冊 ・新聞、雑誌、郷土資料等の収集、保存 ② 読書推進事業の開催 ・ブックスタート、おはなしの会（ブックスタート11組、ブックスタートプラス14組、お話の会 年8回） ・子ども司書講座 4日間7講座 5名の修了者 ・読書作品コンクール 読書感想文部門 読書感想画部門 ・かるまい朗読会、学校巡回朗読会の開催 学校巡回朗読会 2月14日 3小学校4公演 220人 かるまい朗読会 2月15日 155人 ③ 学校図書館支援 ・学校図書館システム運用支援 ・学校図書館巡回による活動支援 ④ 学校図書館ボランティアの育成	A	・住民の多様な学習ニーズに応えるため、利用者のリクエストや蔵書構成に留意しながら、資料の収集、保存に努めた。 ・図書館資料を活用した図書展や講座を開催し、読書活動の普及に努めた。 ・赤ちゃんと保護者が絵本を通じて触れ合うことを目的にブックスタートを実施した。 ・子ども司書講座を継続的に開催し、図書館への興味関心を高めるとともに子ども読書リーダーの育成に努めた。 ・朗読会により、朗読による本の感動を伝えることが出来た。 ・図書館情報システムを有効に活用し、蔵書検索や貸出予約等、利用者サービスの向上を図った。 ・図書の修理講習等を通して、図書館ボランティアの育成と活動の支援を行った。

第2章 学校教育の充実

1 幼児教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 認定こども園・保育園と小学校との連携	ア 認定こども園・保育園・小学校連携事業 イ 架け橋期カリキュラムの策定	A	・幼児と児童の交流や保育士と教員の合同研修を実施し架け橋期カリキュラムを作成し始めることができた。

2 義務教育の充実

(1) 確かな学力を育む教育の推進

i 児童生徒の学力の向上

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 主体的・対話的に深い学びの視点からの授業改善の推進	ア 授業改善研修会開催 イ 指導主事学校訪問 ウ 学校教育アドバイザー派遣事業 エ NIE（新聞教育）の実施	A	・授業改善について各校で取り組むと共に、研修会や会議等で情報提供や各校の情報交流を行い推進した。 ・授業改善研修会では、先進的な実践家を招聘し、示範授業、講義を行い「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業づくりについての助言を頂いた。 ・新聞教育を通して児童の情報の取得や考える力、表現力の向上を図った。
(2) 各種調査結果の分析・活用	ア 学力検査・学習定着度状況調査 ・全国学力・学習状況調査（小6、中3） ・中学校新入生学習状況調査 ・県学習定着度状況調査（小5、中2） ・町標準学力調査（小1～4、中1） ・学力向上対策会議	A	・各調査結果等を分析し、それを基にした指導主事訪問等で状況の把握に基づいた取組を各校に促すことができた。 ・学力向上対策検討会議では、町で行っている標準学力調査からわかった結果について、調査を作成している事業者に軽米町の状況を説明を受けた。また、年度後半の会議では、課題に基づいた改善案を具体的に提示し、実態と照らし合わせながら自校の取組の改善を図った。
(3) 学習習慣形成の推進	ア メディアコントロールの実施 イ インターネット利用の実態調査と検証 ウ 家庭学習の充実	A	・各学校において、家庭での情報メディア活用時間の利用制限等の取組を行った。 ・家庭学習における課題を見出し、課題の改善を通して学力向上に結びつけるよう努めた。 ・授業と連動した家庭学習となるように計画的に課題を与えるとともに、宿題と自主的な学習をどのように位置づけるかについても検討した。
(4) 「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実	ア 少人数指導の実施 イ 学力向上支援員の配置 ウ 一体的な充実を目指した授業改善	A	・各校に学力向上支援員を配置し、教職員と連携を取りながら習熟度別をはじめとした少人数指導や個々の児童に配慮したサポートを行った。 ・サマー学習会（小学生 8月2日、中学生 7月30日～31日の2日間）及びウインター学習会（中学生 12月25日・26日の2日間）を計画し、学力向上支援員及び英語指導助手、外部講師による個別学習指導を行った。 ・各種検定の検定料を助成し、学力向上の一助とした。
(5) 小中連携の推進	ア 連続した学習指導、生徒指導の充実	A	・進学による学力の状況の変化や共通した課題等を話し合い、9年間を見通した小中連携が図れるようにした。

ii キャリア教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 教育活動を通じた推進体制の確立	ア キャリア教育担当の配置 イ キャリアパスポートの活用	A	・キャリア教育推進のため、年間計画に関連教育活動を位置付け、小学校では将来を見通す力を、中学校では進路や職業観の形成に努めた。 ・キャリア教育の担当者を中心に、教育活動を通して個々の生徒に応じたきめ細かい進路指導を行った。
(2) 家庭、地域、産業界と連携した社会体験活動の充実	ア キャリア教育推進協議会の開催 イ 催 キャリアスタートウィーク事業	A	・地域の事業所や関係機関をメンバーとしたキャリア教育推進協議会を開催し、推進の方向性と内容を共有し、キャリア教育を支える受入先職場の確保など体制整備を図った。 ・町内事業所のご協力により職場体験学習を行うことができた。実社会での勤労観、職業観の醸成や広い視野をもち地域を知る力の育成に資することができた。

iii グローバル人材の育成

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 教育活動を通じた推進体制の確立	ア 外国語関連事業の開催 イ 外国語教育に係る研修会等の開催 ウ 英語検定料の助成	A	・中学生に検定料の助成を行い、英語力のスキルアップを図った。 ・町内全小学6年生を対象にしたイングリッシュツアーを開催した。各小学校を相互訪問し、英語による交流を行い英語力の醸成と、同世代との交流の中で中学校進学後の学習や人間関係に対する不安を解消につなげた。
(2) 外国語指導助手の活用	ア 小中学校へのA L T派遣事業 ・小学校専属英語指導助手 1人 ・中学校外国語指導助手 1人（委託）	A	・外国人を含む外国語指導助手が学校を訪問し、英語指導を行うことにより、児童生徒の英語力向上と国際的感覚の醸成が図られた。
(3) 海外派遣研修の実施	ア 中高生海外派遣事業	A	・本事業は、現地の青少年との交流やホームステイ等を通して、国際感覚を身に付けさせ、個性豊かな人材を育成することを目的としアメリカ合衆国ポートランドでの研修を実施した。なお、この事業は一戸町と合同で実施した。 ・海外の文化、歴史、風土、人に直接触れることで語学力の向上及び異文化への理解醸成を図った。併せて日本文化の紹介を通し、自国文化の発信力及びコミュニケーションの向上につなげた。

iv 学校教育の情報化の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 教育活動を通じた情報活用能力の育成	ア 組織的な校内体制の整備 イ 発達段階に応じた情報活用能力の育成（軽米町ICTスキルアップステップ）	A	・各校に配置されたI C T（情報・通信技術）機器を活用し、情報収集や機器の操作を学ぶ情報処理能力の学習指導を展開した。 ・学習ソフト等のメーカー主催の研修会を周知し、教員のICT活用方法の理解を深め指導力の向上を図った。 ・発達段階に応じた情報活用能力体系表を作成し、その項目を指標として各校で指導にあたり、児童生徒の情報活用能力の醸成を図った。

(2) 教育の情報化に関する推進体制の充実	ア ICT活用促進事業の実施 イ ICT機器の環境整備	A	・整備されたICT機器を効果的に活用するため、ICT支援員を派遣し、わかる授業づくりの支援を実施した。 ・GIGAスクール構想に基づき整備した児童生徒1人1台のタブレット端末と、全小中学校の学級数分の電子黒板の有効活用を継続して行っている。
(3) 情報セキュリティ・モラルに関する資質・能力の育成	ア インターネット利用状況調査 (対象：小学生3年～6年、中学生、高校生の児童生徒及び保護者) イ 実態に応じた情報セキュリティモラル指導	A	・アンケート調査を行い、利用実態を把握した。利用の低年齢化が進んでいることが分かり、実態に対応した指導を行った。 ・各校において啓発等を行い、家庭での生活改善に取り組んだ。

2 豊かな心を育む教育の推進

i 道徳教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 学校教育活動全体を通した道徳教育の充実	ア 道徳教育全体計画や年間計画の工夫改善 イ いわての復興教育の充実	A	・学校が教育活動全体を通して道徳教育を進めるために、各活動における内容項目を押さえ、各校で策定している全体計画に基づいて全教師が指導力を発揮できる体制を整えた。 ・道徳教育と復興教育との関連を図りながら、各校の計画に基づいた指導が行われた。
(2) 「特別の教科 道徳」の充実	ア 「道徳」の評価・指導の見直し	A	・「考え、議論する道徳」の実践に向け、構成や発問を検討し、各校で組織的に授業改善に取り組んだ。
(3) 家庭、地域社会との連携を深める道徳教育	ア 地域ぐるみで子供を育てる体制づくり イ スポーツや伝統芸能の継承など家庭・地域との協働	A	・道徳教育全体計画の中で他教科や領域との横断的な学習を進めつつ、学校行事や地域行事等と関連させる取組を行った。 ・学校、家庭、地域が一体となり地域ぐるみで伝統芸能の継承を推進した。

ii 生徒指導の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 不登校対策の推進	ア スクールソーシャルワーカー派遣 イ スクールカウンセラー派遣事業 ウ 児童福祉関係機関との連携 エ 教育相談の実施 オ 教育支援センターの開設	A	・スクールソーシャルワーカーが各校を訪問し、支援が必要な児童生徒や家庭に対して適切に対応した。 ・スクールカウンセラー派遣事業を活用し、児童生徒や保護者、教師に対する課題解決に向けた助言を実施した。 ・スクールソーシャルワーカーや児童福祉関係機関と連携し、学校不適応傾向にある児童生徒に対応し不適応解消に努めた。 ・学校教育アドバイザーを置き、教育に関する相談活動に努めた。 ・旧軽米幼稚園に校外型教育支援センターを開設し、不登校児童・生徒への対応拠点として対策を進めた。

(2) いじめ防 止の取組 の推進	ア いじめ対策委員会の開催 イ 早期発見と迅速な組織的対応 ウ 関係機関との連携	A	・各校において策定しているいじめ防止基本方針の見直しを進め、方針の共有と不登校や問題行動に組織的に対応し、未然に防ぐ取り組みを推進した。 ・問題行動やいじめ、不登校に係る研修会を開催し、生徒指導担当教員の資質向上を図った。 ・日々の観察及び定期的に行うアンケートや面談を通して児童生徒の状況を観察し、把握後は組織的な対応を行うとともに、関係機関等と連携を図りながら未然防止に努めた。
(3) 認め合 い、高め 合う集団 の育成や 体験活動 の推進	ア 生徒指導の充実と集団づくり イ 体験活動参加等の推進	A	・学校・警察連絡協議会を開催し、警察等関係機関と学校関係者で活動方針と体制の共有を図った。 ・各校の指導体制について情報交換を行うほか、「次代を担う軽米の子」のリーフレットを活用し、全校が共通した認識のもと指導体制の連携強化を図った。 ・小・中・高の先生方とPTA専門部と連携し、軽米秋まつりの巡回指導を行っている。

iii 環境教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 身近な自然 や環境問題 を題材とし た学習の推 進	ア 観察・調査・見学等の体験的学習 イ 環境問題に対する意識の醸成	A	・地域の身近な自然や環境問題を題材とした、観察や見学など体験的な活動により、実践的な環境学習となり、意識の醸成が図られた。
(2) 家庭・地 域との連 携の推進	ア 家庭と連携した3R運動の取組 イ 地域の環境保全活動への参加	A	・地域や各校で取り組んでいる環境運動との連携やリサイクル運動などについて環境問題への意識を高めることができた。

3 健やかな体を育む教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 体力向上 の推進及 びより良 い運動習 慣の形成	ア 体力・運動能力調査の実施 イ 生涯にわたって運動を継続するための基盤づくり	A	・児童生徒の個々の体力、運動能力の実態把握をするとともに、体育活動を通じた運動量の確保や体力向上を図り、健康な体づくりを推進した。 ・運動会や体育祭などの学校行事や、部活動等を通じ運動に取り組む姿勢や態度の育成を促すとともに、各種競技会で成果を発揮できるように支援した。
(2) 学校保健 の充実	ア 児童生徒の健診 イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の委嘱 ウ 学校保健研究大会の開催	A	・日常の健康観察を重視し、学校医等との連携を図りながら、各種健診の実施と事後指導を行い、児童生徒の健康管理に努めた。 ・学校保健研究大会を開催し、学校及び関係機関と連携を図り、学校保健に係る現状や課題の共有に努めた。 ・新型コロナが5類に移行後も、引き続き学校との連絡体制を強化し、その他の感染症対策を含め努めた。

(3) 学校安全 の充実	ア 施設設備の点検管理 イ 避難訓練の実施 ウ 通学路の安全確保活動	A	・学校管理下における各種事故を防止するため、学校施設の点検及び管理に努めた。 ・児童生徒の登下校時の事故防止に努めるとともに交通安全教室等を実施した。 ・緊急連絡体制の整備後は、メールによる保護者への一斉連絡システム及び連絡網を効果的に活用している。 ・地震や火災など緊急時に冷静に対応できるよう避難訓練を定期的の実施した。
(4) 学校給食 の充実	ア 発達段階に応じたバランスある給食 イ 安全な学校給食共同調理場の運営 ウ 食物アレルギー対応	A	・学校給食実施基準に基づき、安全で栄養摂取基準量を満たした給食を提供するように努めた。 ・軽米町アレルギー疾患対応指針に基づき、引き続き食物アレルギーを有する児童生徒に対し、安心安全な給食を提供している。また、食物アレルギーにより弁当を持参した児童の保護者に弁当対応補助金により支援を行った。 ・二戸管内の栄養教諭を招いた衛生管理研究会や保健所職員を招いた研修会の実施により、外部の意見を取り入れ、日々の衛生管理の方法を見直すことで、安全性の向上に努めた。
(5) 食育の推進	ア 地産地消・郷土食の推進 ・地場産物を活用した献立 ・いわての郷土食の提供 イ 地域や家庭と連携した食育指導	A	・地域で生産される食材を活用した特色のある給食の提供に努めた。地元生産者を物資納入業者として登録を継続し、地産地消の取組を進めることができた。 ・雑穀、肉類など地場産物を活用した献立やいわての郷土食の提供に努めた。 ・毎月1回広報誌を配布し、給食の情報や食事のマナー、郷土食や旬の食材を使ったレシピなどの情報提供し、食育指導に努めた。

4 特別支援教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 適切な就学支援の推進	ア 就学支援委員会の開催 ・特別に支援が必要な児童生徒の判断 イ 特別支援学級の設置 ウ 通級指導教室の設置 ・ことばの通級教室	A	・障がいを持つ子とその保護者等に対し、相談や支援ができる体制の整備に努めた。 ・特別支援教育を大切にし、今後も特別支援学校との連携体制を整えていく。 ・就学時健診を実施し健康観察と就学のための支援を行った。
(2) 支援、指導体制の充実	ア 特別支援教育支援員の配置 ・小学校6人、中学校1人 イ 特別支援教育コーディネーターの配置 ウ 特別支援教育研修会の開催 エ 「個別の支援計画」の作成と引継ぎ	A	・各校に特別支援教育支援員を配置するとともに特別支援教育コーディネーターを位置付け、校内の支援体制の充実を図っている。 ・特別支援教育研修会を開催し適切な支援を学び、特別支援学校との連携により障がいに応じた支援を行った。
(3) 交流及び共同学習の推進	ア 特別支援学級と通常学級との交流 イ 特別支援学校との交流	A	・特別に支援を要する児童生徒の実態により、計画的かつ適切に交流学級での学習を行うなど、個々の児童生徒に応じた支援を行った。 ・県北地区の特別支援学校の児童と町内小学校児童の交流を行うことができた。

5 地域と共にある学校づくりの推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 目標達成 型の学校 経営の推 進	ア 学校経営計画の策定 イ コミュニティ・スクールの充 実	A	・ 学校長のリーダーシップや教員の企画力の 一層の発揮を促す事務処理体制の整備を行っ た。 ・ 教育活動についての外部評価を取り入れ、 学校経営の改善に努めた。 ・ 全学校におけるコミュニティスクールへの 運営を支援した。
(2) 学校と家 庭、地域 との協働 の推進	ア まなびフェストの設定 イ 特色ある教育活動の推進	A	・ 学校や児童の実態に応じ、教職員、児童生 徒、保護者が一体となって取組むため、すべ ての学校が「まなびフェスト」を設定し、目 標達成に努めた。
(3) 地域と連 携した実 践的な防 災教育の 推進	ア 地域連携型の防災教育の推進 イ 地域防災を支える人材育成	A	・ いわての復興教育の3つの教育的価値「い きる」「かかわる」「そなえる」を、学齢に 応じて様々な教育活動と密接な関係を図りな がら、家庭、地域、関係機関が連携した防災 教育に努めた。 ・ 東日本大震災被災地域の調べ学習を通し て、自然災害に対する理解や防災意識を高め る指導を行った。

6 教育環境の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 教育環境 の整備	ア 遊具等施設整備の点検及び修 繕 イ 遊休施設の利用と処理 ウ 校舎の建設修繕計画検討	A	・ 児童生徒が健やかに学習できるよう、学校 施設の状況を把握し、施設の維持修繕及び管 理を行った。 ・ 化学物質による健康被害を防ぐため、教室 の空気環境測定を行った。
(2) 教育用備 品の整備	ア 教材備品・学校図書館図書の 整備 イ ICT機器の整備	A	・ 学習指導要領に沿った指導を行うため、各 校からの要望を取りまとめ教材備品を整備し た。
(3) スクール バスの運 行管理	ア 効率的で安全なスクールバス の運行 14路線	A	・ 平成26年度の軽米中・小軽米小の学校統合 に伴い、児童生徒の通学手段確保のため、町 内小中学校に合わせて14路線のスクールバス を運行している。

第3 中高一貫教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 6年間を 見通した 一貫した 指導	ア 中高一貫教育交流事業 イ 中高における「かるまい学」 の実施 ウ 中高一貫教育協議会の開催	A	・ 中学校と高校が連携して指導体制を整え、 数学・英語を中心とした教員の交流授業を 行った。アンケートでは数学、英語共に、 87%以上の生徒が授業を受けてよかったと回 答しており、好評であった。 ・ 高校生が自作した学校紹介や進路指導の現 状を発信するパンフレットを作成し、中学生 へ周知するなど、高校の情報発信を行うこと ができた。 ・ 連携型志願者数について、在籍生徒数に対 する割合が令和5年度と比較して上昇した。 ・ 総合的な学習・探究の時間の中で「地域学 習（かるまい学）」を中高6年間で取り組ん でいる。 ・ 数学検定の中高合同実施や、中学生の英検 受検に際して高校教員が面接・作文指導など の支援を行った。

(2) 地域との 連携	ア 中高一貫だよりの発行 イ 中高一貫教育地域支援者会議 の開催	A	・中高一貫だよりを年3回発行し、全戸配布を行ったことで、効果的な情報発信ができた。 ・中高一貫教育地域支援者拡大会議を開催するとともに、中高一貫だよりの発行や町広報紙に定期のコーナーを設置し、地域の理解と協力を求めながら遂行した。 ・中学校の生徒数が減少しており、軽米高校入学志願者増に向けて、今後、魅力づくり、特色づくりが喫緊の課題であり、地域住民からの意見も取り入れながら、事業を行っている。
(3) 交流活動 の充実	ア 授業・部活動の交流 イ 中高一貫クリーン作戦の実施	A	・3年ぶりのクリーン作戦を合同で実施した。 ・中高生徒会執行部交流会、朝の挨拶運動は3回実施し、また、合同練習を行った部活動もあり、充実した交流活動となっている。 ・高校体験入学での生徒会パネルディスカッション等を通して中学生の理解を深めることができた。

第4 教職員研修の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 教職員研 修を通し た人材育 成	ア 初任者、教職経験者2年・3 年・5年研修等 イ 研修体系の再編に応じた各研 修	A	・総合教育センターや教育事務所と連携を図りながら、教員の指導力向上に向けた各種研修を実施した。
(2) 授業力向 上に資す る研修の 充実	ア 教職員の授業力向上に資する 各種研修会 イ 授業改善・教務主任・研究主 任・生徒指導主事研修等	A	・各校の校内研修を充実させるため、主任層への研修に力点を置くことによって、学校組織全体の資質向上が図られた。

第3章 生涯スポーツの振興

第1 スポーツ施設の整備・充実と活用促進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 生涯スポーツ施設の計画的整備	① 施設の計画的整備 ② 体育備品等の整備 ③ ハートフルスポーツランド沈砂池修繕 ④ B&G海洋センタープール	A	・ハートフルスポーツランド野球場スコアボード予防保全整備。 ・かるまい文化交流センターのトレーニングルームの利活用を進めた。 ・トレーニング器具の使用方法的の掲示や運動指導員の配置の検討が必要である。 ・豪雨等により崩落したハートフルスポーツランド沈砂池の修繕工事を行い施設の保全に務めた。 ・老朽化が進んでおり、今後の方向性を検討する時期にある。
(2) 学校体育施設開放事業の充実	① 町内4小中学校(軽米小、小軽米小、晴山小、軽米中)の体育施設を開放	A	・地域のスポーツ活動の拠点として、地域住民のスポーツ推進の利便性が図られた。
(3) スポーツ施設の活用促進	① 芝桜スポーツフェスティバルの実施 ② 広報誌及びHPでの周知	B	・芝桜の開花に合わせて、ハートフルスポーツランド等を会場に各競技団体が主管となり大会を開催しスポーツ人口と交流に務めた。 ・体育施設情報の発信に努め、町民の生涯スポーツの振興に努めた。

第2 スポーツ活動の活性化

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 町民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実	① 第26回「森と水とチューリップ」パークゴルフ大会 5月5日(日) ② 芝桜スポーツフェスティバルの実施 5月～6月 競技団体10団体 12大会開催	B	・パークゴルフの普及と、参加者の健康・体力づくり、愛好者の幅広い交流が図られた。 ・芝桜の開花に合わせて、ハートフルスポーツランド等を会場に各競技団体が主管となり大会を開催しスポーツ人口と交流に務めた。
(2) スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保	① スポーツ推進委員研修会への参加 ② 各種講習会・研修会への参加促進	B	・スポーツ推進委員研修会に参加しニュースポーツの体験と交流促進に務めた。 ・各種講習会、交流会等について、スポーツ推進委員や関係者に周知し参加を促した。

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(3) スポーツ 団体の育 成・支援	① 町体育協会の活動支援 ② 町スポーツ少年団の活動支援	B	・軽米町体育協会及びスポーツ少年団の充実した活動の推進と競技力の向上が図られた。 ・各団体での自主的な事業実施に向け、組織を運営する人材や指導者の育成に係る支援が必要である。
(4) 競技ス ポーツの 振興	① 各種スポーツ大会の開催 ・町体育協会主催大会の支援 ・かるまい・スポーツフェスタの開催（2競技団体が大会を開催）	B	・各競技団体主催大会については、生涯学習カレンダーへの掲載や物品の提供及び貸し出しを行った。 ・体育協会が主催し、各競技団体が主管となって行ったかるまいスポーツフェスタの開催周知と取りまとめを行った。
(5) 生涯ス ポーツ推 進体制の 整備・充 実	① スポーツ推進委員の委嘱15人 【任期 R5. 5. 1～R7. 4. 30】 ・スポーツ指導者養成 ・岩手県スポーツ推進委員協議会総会及び研修会へ参加	B	・スポーツ推進委員を委嘱し、推進体制の整備・充実を図っている。 ・東北地区並びに岩手県のスポーツ推進委員競技会総会や研修会に参加し指導力向上と交流に務めた。

第4章 多様で個性ある文化の創造

第1 芸術文化の振興

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 町民の芸術文化活動の推進	① 第45回軽米町民文化祭 ・さつき盆栽展【35点】 来場者 79人 ・秋の盆栽展【36点】 来場者 214人 ・展示部門 幼児絵本感想画展 82点 小中高書写絵画作品展 268点 一般応募及び文化所属協会 会員作品展 512点 来場者 451人 ・文化協会ステージ発表会 出演 9 団体 来場者144人 ② 青少年劇場 混声四重唱とあそぼう「オペ ラ」ってなあに？鑑賞会 小中学生289人 ③ 中高生の音楽部・吹奏楽部への 演奏機会の提供 ④ 芸術文化講座の開設 ⑤ 生涯学習フェスティバルの開催	A	・町民文化祭は、町文化協会会員の活動 意欲の醸成が図られ、町民に広く鑑賞の 機会を提供することができた。また、町 民講座のほか、町内各分野の団体の作品 も展示し、活動紹介にもつながる良い機 会となった。 ・青少年劇場では、小学生に優れた舞台 芸術を鑑賞する機会を提供することがで きた。 ・前年度よりも多くの講座を開催し、芸 術文化活動の継続を図ることができた。
(2) 芸術文化 団体の育 成と支援	① 軽米町文化協会育成支援 ・町民文化祭の共催 ・かるまい文化交流センター 開館記念イベントの実施 ・伊藤多喜雄&TAKiO BAND コンサート 8月24日 来場者188人 ・第1回映画上映会 「息子」 9月6日 来場者65人 ・わらび座ミュージカル 「青春（アオハル）する べ！」 9月22日 来場者163人 ・第2回映画上映会「銀河 鉄道之父」（2回上映） 10月6日 来場者184人 ・新沼謙治歌謡コンサート （2回公演） 10月13日 来場者669人 ・第3回映画上映会 「PERFECT DAYS」（2回 上映） 11月10日 来場者143人 ・文化協会創立70周年記念 軽米町民劇「一月のほと る」 12月8日 来場者269人 ・第4回映画上映会 「山懷に抱かれて」 12月22日 来場者122人 ② 自主サークルの育成支援	A	・文化協会加盟団体の学習活動を広く町 民に周知し、芸術文化に親しむ機会を提 供することにより、各団体の活性化が図 られた。 ・文化協会と連携し、町民文化祭を開催 し、優れた芸術文化を鑑賞する機会と なった。 ・令和6年度はかるまい文化交流セン ターの開館を記念し、映画上映会やコン サートなど各種イベントを実施し、芸術 文化の振興に貢献した。

第2 文化遺産の保存と伝承

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
(1) 文化財の調査と指定の促進	① 町内遺跡発掘調査事業 ・試掘調査 3件 ・出土木材保存処理	A	・埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。
(2) 文化財の保存と活用	① 二戸地区郷土芸能発表会 11月17日 ・町内参加団体4団体、二戸管内3団体出演 来場者169人 出演者161人 ② 軽米町郷土芸能保存会の支援	A	・かるまい文化交流センター開館記念行事の一環として二戸地区郷土芸能発表会を開催し、PRに努めた。 ・活動中止した団体にも継続した支援を行いながら、保存に努めたいが子どもの減少など継承することが厳しい状況である。
(3) 文化財愛護思想の啓発	① 軽米町史の販売 ② 文化財調査報告書等の発刊	A	・軽米町史等は資料館等で販売している。今後も広く情報発信を行い販売促進やPRに努めたい。